

特別展報告
里山の自然
佐々木彰央



特別展「里山の自然」入口でツキノワグマの剥製が出迎える（写真右側）

8月10～31日にかけて、静岡県自然学習資料センターで開催した特別展「里山の自然」は、里山に暮らす生き物や里山環境の変化や現状を紹介し、里山環境の役割とその重要性について理解を深めてもらう趣旨で開催しました。

会場は、「里山とは何か？、静岡の里山の特徴」を説明するエリアと、里山の生物の特徴を説明するエリアに分けました。

生物の展示エリアでは、水環境と陸環境に分け、水環境では水生植物、水生昆虫、ホタル、甲殻類、魚類、両生類、タニシなどを紹介し、陸環境ではカタツムリの仲間、樹木、腐生植物、カブトムシ・クワガタムシなどの甲虫の仲間、蝶の仲間、爬虫類、野鳥、モグラの仲間、コウモリの仲間、ネズミの仲間、中型哺乳類、大型哺乳類を紹介しました。展示標本については、昆虫や植物の乾燥標本のほか、毛皮標本、剥製、骨格など標本も充実し、ジオラマや生体展示も行

いました。

さらに展示標本を充実化させるために、今回の展示では新たにシーラー（パック式）による標本作成を用いました。シーラーとはパック内に標本を密封させる方法で、比較的容易に作ることができ、水生生物の標本をきれいに展示することができました。

また各展示パネルは、子供でも理解しやすいようにイラストや写真を豊富に用いて作成しました。

展示準備は、約3ヶ月かかり、日中はイラストレータを使ってパネルを作成し、夜間は展示に使用する生き物の写真や生体採集を行いました。休みの日も県内の里山を歩き、ホタル、両生類、ヘビ類を探しました。

その結果、ホタルについてはカタモンミナミボタル、ムネクリイロボタルなど珍しいホタルと共に、ゲンジボタルやヘイケボタルなどの県内でみられる全種類、サンショウウオについてはハコネサンショウウオ、ヒ



猟友会寄贈のシカのトロフィー



大人気のザリガニ釣りコーナー



展示解説を聞く見学者



静大サークル「グリーングリーン」による
竹細工作り体験コーナー

ダサンショウウオ、アカイシサンショウウオの県内でみられる全種類、カエル類はアマガエル、モリアオガエル、カジカガエルなど7種類、ヘビ類はアオダイショウ、シマヘビ、シロマダラなど7種類、魚類はミナミメダカ、チワラスボ、カワヨシノボリなどの16種類、巻き貝の仲間はオオケマイマイ、ニッポンマイマイ、オオギセルガイなどの7種類など、たくさんの種類の標本を集めることができました。

また平井先生、諏訪先生、鈴木先生のご協力で、ゲンゴロウの仲間の標本46種類やカブトムシやクワガタ、オオムラサキなど樹液に集まる昆虫などの昆虫標本が集まり、三宅先生のご協力でイノシシ、ツキノワグマ、カモシカ、アナグマ、タヌキ、テン、イタチ、ノウサギ、ハクビシン、アライグマなど様々な種類の毛皮標本を集められました。さらに猟友会からは、迫力のあるツキノワグマの剥製とシカのトロフィーを譲り受け、展示することができました。

生体展示では、静岡ガスのご協力で、生きたミナミメダカなどを採集することができ、特に、その中のアメリカザリガニは、子供達向けにアメリカザリガニ釣り体験を実施し、子供達の人気コーナーとなりました。

展示期間21日間の来場者数は400人を超えました。展示会場を見に来て下さった方々からの反応は「勉強になった・楽しかった」などの評価を頂きました。また、展示期間内に繰り返し見に来て下さるリピーターもあり、制作サイドとしては嬉しい限りでした。

この特別展では、当NPO会員の方たちをはじめ、東海大学・静岡大学の博物館実習生、静岡大学サークル「グリーングリーン」のメンバーなど、多くの方々のご協力を得て開催することができました。ご協力していただいた方々に心より感謝申し上げます。